

第1回宇美町総合計画審議会 会議録（要旨）

日時：2021（令和3）年11月17日

場所：宇美町役場2階大会議室（左）

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 副町長あいさつ
4. 委員及び事務局の紹介
5. 会長及び副会長の選出
6. 会長あいさつ
7. 諮問
8. 議題
 - (1) 第7次宇美町総合計画について
 - (2) その他
9. 閉 会

1. ～7. 割愛

8. 議題

- P. 1宇美総合戦略との一体化を図っていくと書かれている。現在の総合戦略は今2年目だったと思うが、今回あわせて一緒につくり上げようと考えているのか。それとも今のものはそのままにしておいて、今の総合戦略はそのままにしておいて、総合計画を計画だけをやるのか。この一体化を図るといっているのはどういうことか。（委員）
- ➔ 今の第2期総合戦略が令和2年から始まり、5年間の計画になっている。この5年間の計画を1年早めに終わらせて、令和4年度末をもって第2期総合戦略を終わらせるという形で、この第7次総合計画のほうが令和5年からスタートするので、第3期総合戦略をこれにあわせ、新しく4年間という形で一体化する。したがって、第2期総合戦略は毎年度それぞれ評価検証をし直して必要があれば見直すというものであるが、期間の終了を1年早くするという形になる。（事務局）
- 今の総合戦略はそのまま進めていくということか。見直しは行わないということでよいか。せっかくなので総合計画とあわせて一緒に見直すというほうがよいのではないと思うが、その辺りの考え方が、どうも今伝わらなかった。総合戦略は1年前倒しする、であれば、いつ反映させるのかというような、非常に気になるところ。（委員）
- ➔ 第7次総合計画が令和5年から始まるので、令和5年からの第3期総合戦略を始めるということで、毎年毎年の見直しについては評価検証が必要があれば見直していくという形になる。第7次に

向けてそれにあわせた総合戦略を、スタートは第7次総合計画と同じく令和5年からスタートさせる形になる。(事務局)

- 現行計画の評価と検証というのは、いつ行って、どの場で反映させる、あるいは私達に見せてもらえるのか。その評価と検証というのがきちんと行われていないと、次の計画の策定にも影響してくるのではないかと。実際どういった事業がやれたのか、やれてなかったのか、指標に対してどのような成果があったのか。そういったことがやはり私達も知りたい。そうしないと審議も何もないのではないかなと思うが、その辺りはどのようになるのか。(委員)

→ 先ほどスケジュールの中で説明をしたところだが、現行の第6次については、令和4年度末までを予定している。今年度、令和3年の秋に、これまでの第6次総合計画を振り返って各課の評価シートを作成している。今、まちづくり課のほうでそれを集約しているところである。12月半ばに各課のほうにヒアリングを行い、その分析という形で集約するのが、2月ごろになる。次回の第2回の審議会の時にそちらをお示しする形になる。(事務局)

- 資料2の組織図だが、全職員を対象に策定部会、そこから素案を持ち上げて策定委員会でこれを練り上げ、それを私達がまた審議して答申していくという流れになると見込まれる。

職員の方々がこの総合戦略、計画に対しての意識であったり、知識、ここがどうも伴っていないのではないかとというのが非常に気になる場所である。

事前にきちんとした研修を行ったり、あるいは意識を高めていくとか、そういったことをやろうという考えはないか。(委員)

→ 今回、嶋田先生にこの審議会の委員になっていただき、会長も務めていただいているところだが、嶋田先生のほうから職員研修というのをさせていただく予定になっている。12月に予定しているところである。今後も、プロジェクトチームへのワークショップなどを開催していただき、職員研修的な意味合いで嶋田先生に関わりをお願いしたいと思っている。(事務局)

- 町民ワークショップが開かれるが、そこにはプロジェクトの委員会の皆さん、あるいは策定委員の皆様、こういった方々にも参加していただき、町民の声を一緒に共有していくということが大事ではないか。その辺りのお考えはどうか。(委員)

→ プロジェクトチームの中からこのワークショップのほうに参加させていただき、町民が考えているあるべき宇美町の姿と、職員が考えている宇美町の姿、そのギャップというところを知るために入っていたらこうと考えている。

- 的確なご指摘の質問だったと思う。

まちづくりワークショップに関して、ギャップを知るために入るのも1つかもしれないが、ファシリテーションのような、要するに町民の様々な意見をきちんと整理してまとめ上げていく、そういう力をつけていただくための場としても活用していただきたい。(会長)

- 感想になるが、私達委員自体が全体のイメージを持つために研修に参加させていただくとか、いろいろな会議とかに参加したほうが、町民の人の参加意欲も意識も高まると思う。

今のままでいくと、ただ会議に参加して事務局が提案するものに対して狭い範囲でしか判断でき

ないので、せめてその嶋田先生の講義を受けながら、総合計画とは何か、総合計画によって町がいかに蘇っていくかというか、それを何か教えていただくと助かる。(委員)

- ぜひそのことをご考慮いただければと思う。(会長)

- 嶋田会長から職員力の向上ということが出ている。この総合計画を進めるための中心となる人物の委員会というのはあるか。(委員)
- ➔ 資料2にあるように、総合計画をつくるに当たって庁内で策定部会というものを設けている。策定部会は位置づけ的に「職員が全員で」という体制でやっていきたいと考えている。

ただ、各自がばらばらに考えるわけにはいかないもので、中心となるところについては、各課からプロジェクトチームに参画してもらうよう、予定している。メンバーは選任済み。(事務局)
- 資料2の作業部会プロジェクトチームについてみると、課長補佐、主管、係長級で各課1名という形で構成されるということである。

これに関連して一言コメントさせていただくと、係長級以上となるとそれなりに中堅どころとなって来る。やはり長期的な職員力の養成ということを考えると、若手職員がもっと関わらなければいけないのではないか。策定部会は全員が関わるのだということはおっしゃっているが、抽象的にそのように語っても結局はやはり参加できないだけの話で終わってしまうので、このプロジェクトチームをさらに支えていくような、そういう実働部隊として若手を組み込んでいくような仕掛けを、できればプラスアルファで考えていただけると、理想的であろう。(会長)

- 資料2に、町民参加のほうでは中学生アンケート調査というものがあるが、大変いい試みである。これを活用して、中学生以外の若手の声を反映させるような仕組みをとったらと思う。若い世代の、明日の町を夢見るというか、そういった意見を何らかの方法で集めて、若い世代が町民として政治に参加するような町の雰囲気というかムードを盛り上げていくことがよいと思う。

ここで決まったことと、若い世代、つまり明日の家庭を築く、明日の町を築く住民感覚のずれが一番怖い。

そのような計画になっていると思うが、もっと若い世代の意見を、採り入れられるような仕組みをとられたらどうか。(委員)
- 今のご意見は、先ほど職員の若手という話だったが、それだけではなくて町民のほうの若手も大事だというご指摘とお見受けした。

中学生よりも上の高校生、あるいは20代前後、20代、こういった方々のご意見をうかがう場というのはどのようにお考えか。(会長)
- ➔ こちらのまちづくりワークショップというところで、いろいろなグループをこちらのほうからお声掛けさせていただくと同時に、12月の広報では公募という形でも募りたいと思っている。

また、実現可能になるかはわからないが、宇美商業高校の高校生、こちらのほうにもまちづくりワークショップにグループとして参加していただけたらと考えている。(事務局)
- 総合計画策定のワークショップと言ってしまうとなかなかハードルが高いので、何か若者の方々が集まる場、そういう場にこういったワークショップを組み込んでいくという発想でやられたほうが、より幅広い方々の参加、関わりが期待できるため、町としても工夫をお願いしたい。(会長)

- この計画は最上位計画であるというようなことでまず後ずさりしていた。そして、その中の文章を読んでいく中で、SDGs を考えた町だとか、地域の特性やポテンシャルを活かすとか、客観的・合理的指標とか、町民ニーズの多様化にあわせた戦略的というようなことなどがすべて別々のもののように、何か私の中で一致しない。(委員)
- 確かにわかりにくいと思う部分も私もあって、ちょっと見ただけでも、戦略的に取り組んでいくということの意味合いについて、少しご説明いただけるとありがたい。
資料1の一番下、下から2行目。「戦略的に取り組んでいく計画とする」という部分がある。(会長)
- 予算がないからとか、財政が厳しいからということで取り組めないようなことがあったりするが、その予算をどうやって確保したらよいかというようなことも考えながら、実現可能な方向でいろいろな施策に取り組めるようにということで考えているところである。(事務局)
- ここで戦略的というのは、どちらかという事務方の皆さんからその辺りをしっかり考えたうえで案が上がってくるということの意味しているということか。
SDGs の考え方という部分についてはいかがか。(会長)
- 今回、第2期の総合戦略は、施策ごとに「SDGs ではこういう考え方のもとでやっている」というところを示したものととして策定しているが、第6次は8年前ということで、SDGs との関連性を計画の中では示していない。
第7次ではそこも関連して、施策の中に組み込み、わかりやすいものにしていく。(事務局)
- そうすると、SDGs の考え方というのをいちいち組み込むとわかりにくくなってしまわないかという感じもする。つまり、総合計画としてあるのに、そこに対してSDGs から見るとこうなのだと説明が加わってしまい、シンプルさということからすると、やや矛盾もしてしまいそうな気もするが、そこはいかがか。(会長)
- 第7次総合計画のこの部分はSDGs でいうところを示しているんですよというところが見える、見える化するような形にしたいなというふうに考えている。(事務局)
- 少し本文とは別に、解説的なものがつく感じがよろしいかと。あまり本文に組み込んでしまうと複雑になってしまう。
そのほか、「行政運営に関し、経営的な視点で選択と集中を図り」とか、「合理的な指標に基づく効果検証が可能」とか、「地域特性とポテンシャルを最大限に活かす」とか、こういうフレーズが、なかなか統合的に理解しにくいということだったわけだが、この点は何かご解説があるか。(会長)
- 「(3)行政経営の視点にたち、効果的な行政評価ができる計画づくり」というところに関しては、何がどうなってこういった結果が出ているという評価検証のところは、なかなかわかりづらい部分があった。評価検証を回していく職員についてもそこが少しわかりにくかったという部分がある。
評価検証しやすいといったらいけないが、やって意味のある評価検証の形をとりたい、そういった計画になるようにというものである。(事務局)
- 少し私の理解を申し上げますと、まずこの(3)に関しては、一言で言うと単に抽象的に終わらない、具体的な、具体的に何をどうするかということをはっきり書く必要があると考える。
効果検証を可能にする、というのは、これはなかなか厳しい。例えば移住・定住が増えた。そのときに宇美町でこんな取り組みをしたからこんなに増えたと本当に言えるかどうか。これはやはりいろいろな、コロナみたいなことが発生したときには、これまでの取り組みが一気に駄目になって

しまったりする。したがって、いろいろな要因が働いてしまうので、効果検証というのはそんなに簡単ではない。

いわゆるロジックモデルといわれるような、これをするためにはこういったことが必要だという、きちんとした論理的つながりをきちんと持っておくということ。そこをしっかりとやっていくということが大切だと思う。

例えば「ともに創る 自然とにぎわいが融合したまち」というのは具体的にどういうものであって、現実とどういったギャップがあり、そのギャップを解消していくためには何が必要で、そのために何が壁になっているのかといった部分をしっかりと分析していくことが重要であろう。

そしてこの事業をすればこういう効果があるはずだ、こういったことをすればこうなるであろうという、計画をつくっていただくというのが、(3)なのかなという気がしている。

一方(2)について、より積極的に地方創生という流れの中で、やはり宇美町独自の特性がないと、なかなか人も集まってこないし、活性化していかない。

そういう、ある種の攻めの部分において、この地域特性とポテンシャルというものを意識して計画をつくっていきましょうね。それを活かすような計画にしていきましょうねという方向性の話かなと思っている。(会長)

- ○素朴な質問だが、2月に選挙がある。今、議会広報常任委員長の立場でこの会議に参加しているが、委嘱状との兼ね合いはどうか。役職が変われば委員も変わるのか、そのまま委嘱状のとおりか。(委員)

➔ 審議会の規則のほうにも書いているのが、組織として宇美町議会議員という形で出ていただいている。当然、これでなくなった場合には委員から下りていただく形にはなるが、常任委員長だからなっていたというわけではないので、そこはちょっとご相談で、そのまま残っていただくという方向になるかと思う。(事務局)

- パブコメというのが10月ごろに予定されている。これまでいろいろな計画でパブコメをとられたと思うのが、ほとんどが1件か2件しか出ていない。もっと何か、広報やホームページだけではなく、何か方法がないか。(委員)

➔ 今まではホームページでご紹介し、紙で募集、書いて出していただくとかいうような形の方法しかなかったが、今はホームページでアンケート調査もできる。

そうした手法の活用も含め、より意見を出しやすいような形を検討していきたい。(事務局)

- パブリックコメントに限定しないというのが一つ大事なことであろう。

特に現状のままだと、7月ごろ基本構想素案の協議が、審議会レベルではいったん終わるということなので、このタイミングに合わせる形で、地元の自治会、町内会、協議会、あるいは商工会、関連団体等に意見を求めていくということがやはり大事なのではないかという気がする。

実践計画でそこをやるかどうかというのは一つあるが、できればやったほうがよろしいのかなと個人的に思う。

また、パブリックコメントをする場合においては、ただパブリックコメントをするのではなくて、今回実際町民憲章の時そうだったが、学校に働きかけてパブリックコメントで意見をくださいというような仕掛けが必要ではないか。(会長)

- 現行計画の達成状況について、より具体的に報告をつくっていただいて、とにかくわかりやすくつくってほしい。(委員)
- ○そこは本当に大事だ。とにかく具体性に意味がある。そのためには第6次総合計画達成状況もそうだし、総合戦略の達成状況とか、それも当然踏まえていかなければいけないのかなと思っているので、事務局のほうにはぜひよろしく願います。(会長)
- まちづくりワークショップなどをどういった形で進めていくのか。出向いてくださるのか、何名か集めてなのか、もし決まっていたら教えてほしい。(副会長)
- ➔ 例えば、子育て関係であったり、環境関係であったり、いくつかのグループに分けて、図書館の2階のような会議室に集まっていただき、コロナの時期ではあるが少人数で、かしこまった形ではなくて、言いたいことが言えるような会を想定している。
「トークカフェ」という形で、できればお茶なども飲みながらお話しをさせていただきたいと思っている。(事務局)
- このワークショップの会場は1つに限定しなくてもよいのではないか。今おっしゃったようなパターンもあれば、出向く、アウトリーチ的な形で、そういう気持ちを持った団体の方々には行ってもいいのではないか。そこは柔軟に対応していただきたい。
細かいことだが、資料2について、この審議会は諮問と答申だけが役割となっているが、私どもの審議会からも何かこう反映というふうに矢印が出ていてもよいのかなという気がした。
現状では、事務局案に対してコメントするだけのイメージになってしまう。
そうではないかなと思うので、この辺りはちょっと修正をお願いしたい。(会長)
- 中学生アンケート調査とまちづくりワークショップ、意識調査、内容はどうか、対象は中学2年生になっているが。(委員)
- ➔ →内容については、町民意識調査、3,000人に向けたアンケート調査票の中から、町への愛着度、改善を求める点等を抽出して中学生にはアンケートを行った。中学2年生に絞ったというところについては、3年生は受験で忙しいというところと、2年生は中学1年を経験して2年生になったということを考慮した。
町民憲章と同じようにタブレットを使って、授業等の中で回答をしてもらい、ネットワークを通じて回答があった。
また、一般町民意識調査については、第6次の総合計画後期実施計画のそれぞれの分野についての満足度及び重要度についてご意見をいただいている。
これらの回答状況を指標として見るような形も取っていたのでご質問をさせていただいたところである。(事務局)
- ぜひ、その重要度と満足度、そのギャップを分析頂きたい。どれが期待度が高いのに満足度が低いのか、その年齢別に何がどう違っているのか、あるいは属性別にどう違っているのかとか、そういうことも集計されていると良い。
単に結果を数値で出されてもよくわからないので、きちんと私どもが議論できるような形で出していただければありがたい。中学2年生に限定しなくてもよいのではないかというご意見だと思う

が、そこはなかなか拡充とか難しいか。(会長)

- ➔ 既に 10 月にこのアンケートが終わり、分析に入っているところなので、改めてまたアンケートを何百人ととるといふところは困難。
まちづくりワークショップのほうでまた若い方の意見を反映させていくような形をとりたい。(事務局)
- ワークショップの件だが、幼稚園や保育園、その PTA などを巻き込んでいくようなことをされたらよいのかなと思う。ワークショップをするに当たって、原案なり、計画などをこの場に出してくださると助かる。もう少し、若い人とか保護者の声を反映させたほうがよい。(委員)
- ➔ まちづくりワークショップについては、子ども達の保護者というのも対象にしていきたいと考えている。(事務局)
- 確認だが、このワークショップはどのような目的でされるのか。(会長)
- ➔ 素材を集めるためのワークショップということで、普段自分達が活動していること、また、その活動の中で課題に感じていること、そして町がどうなっていけば、もっと、よいのかということなどを率直におうかがいしたい。(事務局)
- ワークショップも、なるべく、ワークショップに出たいという方を拾ってあげないと、なかなか少数の意見というのは上がってこないのかなと思う。
やはり最上位の計画をつくるに当たっては、こういうワークショップをしているのだというのがたくさんの人目に入って、「応募者多数で抽選になります」というぐらい、参加したいという意識の方がたくさんいることが町の活力というか意見につながっていくのではないかと。(委員)
- ➔ ワークショップについては、活動されている団体を町で把握している分もあるので、団体にお声かけをすると同時に公募という形もとらせていただきたい。12 月の広報の中で公募をかける。
ホームページのほうからも簡単に登録、申し込みができるような方法をとりたい。(事務局)
- その公募の仕方だが、魅力を感じないと応募しないと思う。
「トークカフェ」もすごく魅力的だと思うし、そこに書いてある文章で本当に、中学生でも高校生でも、公募を見た時に参加したいなとか、「うち(の団体)からもちょっと行ってきて」と言えるような内容だったらありがたい。(委員)
- ➔ 工夫したい。(事務局)
- 意識がある人はたいていいろいろなところに意識があって、これに関心を持たれている層というのはある程度固定化しているような気がする。だから、固定化している人は置いておくのは違うが、自然と情報を得てくださるし、発信してくださると思うので、そうではない方たちをいかに巻き込んでいくかということも考える必要があるかなと思う。
広報を見ないと、回覧板を見ないと、そういう方達も増えているというふうにも聞くので、何か別の媒体を通して、今町でこういうことをやろうとしているんだというのが伝えられる方法について、考えておられるか。(委員)
- ➔ 宇美町役場も公式 SNS をいくつか持っているんで、若い方向けにはそちらを通して発信をしていきたい。ただ登録が必要で、宇美町というところで関心を持っていただかないと届かない部分は

ある。

また、ホームページと、今日の会議も含め、こういうことが始まった、経過はこうですというのを発信していきたい。(事務局)

- SNS で発信したとしても本当に関心がないとやはり無理だと思うので、関心がないところにやはりアプローチしていかないと難しい。何らかの工夫を期待する (会長)

- 私は第5次の後期、それから第6次前期、後期と、この総合計画に携わってきたのが、どうしても現実味がない。
立派な計画を立てられるが、結局予算がなく、その事業がなかなかできない。予算との兼ね合いが非常に計画に影響しているのではないかなと思っている。
したがって、この7次については、ぜひ、実現性のある計画、やれる、魅力ある計画を策定していただきたいと思うし、私もそれに向けて一生懸命頑張っていきたいなと思っている。その辺りよろしくをお願いしたい。(委員)

- 今のご意見に対して、第6次の検証をするときにも、夢と現実とのギャップ。その辺りをもう少しきちんと明らかにしておいていただけると、今回の計画策定において、あまり夢ばかり追わないということになるのかなと思うので、お願いします。(会長)

- 予算の関係が第一だろうと私は思う。第5次・第6次にもかかわってきたわけであるが、なにしろいろいろな意見を聞くと、すべての方に、分かりやすくというのは非常に難しい。ガチガチにつくったらいけない。これを読んでみれば「あ、なるほどな」という方向に向けていただきたいと思っている。そうすれば予算でもそうかからないと私は思う。
予算も伴うので、これはあまりガチガチにつくると予算が膨れ上がってくるだろうと私は思っている。(委員)

- 総合計画というのは、いろいろな柔軟性が高いように抽象的に書いておくケースが多い。
抽象的に書けば予算との関連が切れる。ただそうなってくると、逆に検証できず、絵に描いた餅になってしまうという課題が存在する。したがって、計画の最上位の部分は比較的抽象度が高くなってくる。
ただ、実践計画のほうはやはりそれに加えてしっかりとしたものでないと、計画としての意味をなさなくなってしまうので、2つの計画の中でバランスをとっていくということかなと考える。(会長)

- 宇美町農業委員会から参加させていただいている。
最近、自治会活動の中で緊急避難時のサポートが必要な方の調査をした。ところが、提出はしたが、その後どう対策をするのかということ、出しただけでその先が見えない。これは実に深刻な問題である。
調査はよくやるが、その先の行動計画がないのではないかなという気がする。これを機会に取り上げていただけたらよいなという気がする。
そして、農業に関しては、高齢化により、農業従事者の年齢層も非常に高くなっている。
畑ではどういう問題が出てくるかというと、農業の機械化によって機械は持っているが、それを

使い切れない。使ったら事故が起こる。農業委員会も事故に対しては対策を考えるが、この先、不安な気持ちでいっぱいである。

総合計画の中では、こうした部分を取り上げていただけたら有難い。(委員)

- 高齢者が安心して暮らし続けていくための、現状とのギャップを具体的に埋めるための取り組みができていないということなのかと思う。

町の現実をきちんと踏まえたうえで、そのギャップを埋めるような計画にしていきたい。(会長)

- 先ほど予算が足りなくなるというお話があったが、少し言い忘れたことがあって、それはやはりそのときに大事になってくるのは優先順位をつけるということである。

優先順位を付けるというのは個別具体的な事業になればなるほど難しくなる。実はその基本構想の部分は抽象的にならざるを得ないのだけれども、その抽象的な中でも一定の優先順位をつけていく。そこが大事。

そこをまったくやっていないと、結局その下のレベルの実践計画の段階で、優先順位をつけられない。だから単に抽象的というわけではなくて、その中でも一定の優先順位をしっかりと、方向性を示していく。そこはとても大事なことかと思っている。(会長)

- 私は今回初めての参加で、まだはっきりとしたいろはが見えていないが、このコミュニティ代表というのは1年持ち回りである。したがって今年度私は担当になったけれども、来年度は代わる。そこで、一つここで言わせていただきたい。

宇美町には町内会が48個あり。それに対して自治会長は48人いることは皆さんご存じと思うが、その中でコミュニティというのが5年前から発足し、コミュニティ会長が5名が小学校区単位で活動している。

しかしながら、コミュニティに関してこの自治会のほうからの不満というものが非常に多い。自治会の助成金を一部コミュニティに回しているが、自治会とコミュニティが少し足並みがそろっていないところがあるためだ。

これについてはこれからも議題に上がってくる問題だと思う。(委員)

- 今のご指摘もすごく大事で、今全国的にこのコミュニティ組織というものを中心としながら、住民自身でいろいろな問題解決をしていくような方向性が模索されている。そこをやはり住民の方だけにおまかせしてうまくいくわけは到底なくて、様々な部分でやはり行政がバックアップ、あるいは調整していくということは大事になってくる。その際に総合計画にそういった規定が入っているかどうかというのは実はすごく大事になってくる。

例えば今おっしゃった町内会とコミュニティとの関係がうまくいっていないとするならば、行政側が、そうならないようにアドバイスしていくというようなあり方も当然あっていいはずなので、ぜひ今後ともご自身の立場から様々なご意見をいただければと思う。(会長)

- こういった計画をつくるときに、指標というのをすごく大事にするが、現行計画をみていると、はっきり言って使い物になる指標とならない指標とが混在して見える。

指標を設定するのに、職員の意識やレベルを高めていかないと、まともな指標もできてこない。

指標をしっかり提示をすることによって、正当な計画の評価が可能となるので、特に今回の総合計画については、計画を正当に評価できる指標といったものを設定していただきたい。(委員)

- ざっと見ると、結構、満足度でやってしまっているものが多い。満足度でやってしまうとやはり主観的になってしまって、何がどう達成できたのかというのはあまりよくわからなくなってしまう。この指標設定のあり方というのはきちんと考えていく必要があり、策定部会のほうへの注文としてたまわっておきたい。(会長)

- 周知の方法、広報について、広報誌やホームページも、もちろん正しい周知の方法だと思うが、やはり若者などは SNS の活用が大事なのではないかなと思う、
基本的なものなのだが、SNS の使い方がよくないのではないか。若者の意見を受け入れるという話もしていたが、広報のやり方を研究する必要がある。(委員)

- 実は自治体職員でいろいろな勉強組織がたくさんあるのが、その中で最も熱いのが広報。広報担当に関しては全国の自治体職員で広報をやっている人達が集まって、Facebook で集まっていたりして、どうやったら届くかみたいなのをすごくギチギチやっている。そういうところからも学んでいただく方法があるかなと思っている。(会長)

8. 閉会あいさつ

- ➔ 嶋田会長においては議事進行、委員の皆様方においても活発な意見をたまわり、お礼申しあげる。次回の審議会は来年3月頃を予定している。日時については、決定次第、早急にご案内させていただきます。年度末の大変忙しい中での開催となってしまう、誠に恐縮ではあるが、よろしくお願いしたい。

以上